

## 琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会（第 10 回）の開催結果について

平成 28 年 4 月 28 日  
本 部 事 務 局

- |   |      |  |
|---|------|--|
| 1 | 開催日時 | ： 平成 28 年 4 月 27 日(水) 10:00～12:00  |
| 2 | 場 所  | ： 御所西 京都平安ホテル 1階「平安」   |
| 3 | 出席者  | ： 中川博次委員(座長)、中村正久委員、石田裕子委員、角哲也委員、<br>多々納裕一委員、津野洋委員、中川一委員、嘉田由紀子顧問<br>(ゲスト) 北村裕明教授(滋賀大学)、新川達郎教授(同志社大学)、山下淳教授(関西学院大学) |
| 4 | 議 事  | ： 統合的流域管理の実現可能性について  |

## (1) 統合的流域管理の実現可能性について

- 提言書(たたき台)について、①流域ガバナンスのあり方、②関西広域連合の果たし得る役割に関する部分を中心に、前回からの修正箇所を事務局より説明。

## (2) 審 議

- 統合的流域管理の実現可能性について議論なされた。
  - ・ 流域ガバナンスとは、多元的で多様で重層的なパートナー、プレーヤー、ステークホルダーが個別にまた関係者によるネットワークを組んで問題解決にあたるということ。何かすべてをまとめた組織を作るということではなく、個別の課題を解決しながら政策を統合していくこと。(ゲスト：新川教授)
  - ・ 関西広域連合が何かを決め何かを行うということではなく、実際に決めて実施するのはアクター。どうやって決めて、どうやっていくのかの枠組みを提案するのが関西広域連合の役割ではないか。(ゲスト：山下教授)
  - ・ 政策決定というよりシンクタンクとしての役割を持つことが必要。意思決定のベースになるようなアセスメントがいる。(ゲスト：北村委員)
  - ・ 流域アセスメントなどの証拠に基づきさまざまな関係者が議論する仕組みを作るということ。(多々納委員)
  - ・ 事業者(国・府県など)と住民とを繋ぐような役割が重要だと思われる。相互の理解を深めていくことができるのではないか。(中川座長)
  - ・ 流域のアセスメントやベスト・プラクティスの収集・発信、具体的な課題の投げかけや解決方法の提案など、できるところから始めていけばよい。(中村副座長・角委員・中川委員)
- 今後の進め方について確認がなされた。
  - ・ 今回の研究会での議論を踏まえてたたき台を修正したうえで、構成団体への意見照会を行う。
  - ・ 研究会のこれまでの審議状況について、提言書を取りまとめる前に広域連合委員会において、研究会より報告しご意見を伺う機会を設ける。

## (3) 今後の研究会スケジュール（予定）

連合委員会 報告・意見交換  
第 11 回 研究会提言書取りまとめ

平成 28 年 6 月 26 日  
平成 28 年 7～8 月